浜松医科大学開学四十周年記念誌

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-12-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 開学四十周年記念誌編集専門委員会 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/2800

3. 助産学専攻科

1. 助産学専攻科の経緯と現況

1） 助産学専攻科設置の趣旨

平成７年度に医学部看護学科を開設した。保健師・助産師・看護師統合カリキュラムに従い，平成10年度から助産学履修生定員６名で助産師養成を行ってきた。国家試験合格率は毎年100％の合格率を維持していた。ところが，産科医，小児科医の不足が社会問題となる中で，それらをカバーするための高いレベルの助産師をより多く供給することが看護系大学に求められるようになった。

そこで，本学は，質の高い実践能力のある助産師の確保という社会的要請に応えるため，助産師教育に特化した教育課程である助産学専攻科（定員10名）を平成20年４月に設置した。

2） 教育について

本学助産学専攻科の目的は，以下のとおりである。国際人口開発会議提唱の「生涯にわたる女性の健康と性に関する権利」を基盤とした教育を行う。母子及びその家族や地域の人々に寄り添い，対象のニーズに応え得る高度な診断能力及び科学的根拠に基づいた質の高い助産技術と実践能力を身につけることにより，地域の周産期医療の充実，母子保健の発展に貢献できる人材の育成する。

（カリキュラムの基本的な考え方）

カリキュラムは「基礎助産学」を礎に，対象のニーズに対応するための「実践助産学」を設け，科学的根拠に基づいた診断と助産技術を教育する。母子保健を担う専門家としての助産師の役割と責任，研究心を育成する「総合助産学」の４区分から構成している。修了要件は，31単位以上（必修29単位，選択２単位以上）とした。

3） 学部内助産師養成廃止と専攻科養成数の増員

本学では平成20年度に学部の助産師履修コースから定員10名の助産学専攻科として改組し，平成20年から21年度の２年間は学部の助産師履修コース（６名）と助産学専攻科（10名）の合計16名の助産師養成を行った。

平成22年３月に学部の助産師履修コースを廃止し，平成22年４月に専攻科の定員を10名から16名に増員した。これは質の高い実践力のある助産師をより多く供給するためであった。

4） 高等教育における助産師教育の動向

保健師助産師看護師法及び看護師等の人材確保の促進に関する法律の一部を改正する法律により，改正保健師助産師看護師法が平成22年４月から施行され，保健師及び助産師の基礎教育における修業年限について，それぞれ「６か月以上」から「１年以上」に延長された。さらに指定規則の改正に伴い下記の表の単位数の増加がされた。

科　目　名	改正前単位数	改正後単位数
助産診断・技術学	6	8
助　産　管　理	1	2
臨　地　実　習	9	１１
単位数の総計	２３単位以上	２８単位以上

文部科学大臣の指定を受けている高等教育機関の助産師養成学校数は132校，養成人数は1,468人である。

平成25年度に養成課程を変更した大学は８校あり，国立で大学から大学院に変更した大学は１校，公立で２校，私学が５校である。専攻科は私学で２校である。

助産師教育を課程別にみると，大学院や専攻科での養成課程に移行していく傾向にある。それは指定規則の改正趣旨に沿った教育を行うためには，学部での養成では課題が多いためである。

5） 専攻科から大学院（分野増設）への移行準備

平成24年７月第１回助産学専攻科将来計画検討ワーキンググループ（ＷＧ）が教育担当理事を中心に設置され，大学院化に向けて検討を開始した。平成24年11月にＷＧ報告「浜松医科大学における助産師養成の今後の在り方について」で，①助産学専攻科の学生定員削減，②養成人数を削減した上での大学院化が提言された。

平成25年６月に第１回助産学専攻科大学院改組に関するＷＧが開催された。

専攻科での教育では，実践者を育成することが主となっているため，指導者及び研究者としての教育が不足しており，それらを教育するには１年間の専攻科教育では限界がある。

そこで，浜松医科大学の最先端医療を取り入れた教育を行っていくために，助産学専攻科課程から大学院修士課程の分野増設を企画し，平成26年５月に変更承認申請を行った。

2. 組織体制

平成20年 4 月 1 日　久保田君枝　准教授
　　堀田　久美　講師　着任
　　奥川ゆかり　助教　着任
平成21年 3 月31日　堀田　久美　講師　退職

平成 21 年 4 月 1 日　武田江里子　講師　着任
平成 22 年 3 月 31 日　奥川ゆかり　助教　退職
平成 22 年 4 月 1 日　田坂満恵　助教　着任
平成 22 年 4 月 1 日　羽持寛子　特任助教　着任
平成 24 年 3 月 31 日　羽持寛子　特任助教　退職
平成 25 年 4 月 1 日　久保田君枝　教授　昇任
平成 25 年 4 月 1 日　木村幸恵　特任助教　着任
平成 25 年 10 月 1 日　武田江里子　准教授　昇任
平成 26 年 3 月 31 日　久保田君枝教授　定年退職

平成 23 年度から助産学専攻科と臨床看護学講座母性看護学は教員が兼任となったが，助産学専攻科は上記の教員が主に担当し，母性看護学は主に安田講師と足立助教が担当した。

3. 研究活動

①久保田君枝教授：基盤研究 C，「低出生体重児の増加及び体重増加に及ぼす妊婦の栄養状態に関する縦断的研究」，「Changes of maternal dietary intake, bodyweight and fetal growth throughout pregnancy in pregnant Japanese women」
②武田江里子准教授：「18 か月児を持つ母親の「怒り - 敵意」に関する要因及び対児感情への影響―妊娠末期から産後 18 か月までの日本版 POMS による追跡調査から―」，挑戦的萌芽研究，母親の養育者としての発達に関する研究―「愛着 - 養育バランス」尺度の活用―，③田坂満恵助教：「母体の body mass index 別にみた妊娠中の体重増加と出生時体重に関する研究」，「乳児における斜頭症・絶壁頭の防止用具の開発－試作品の効果検証－」

4. その他

社会貢献事業として，「在日外国人への無料検診の実施」，「思春期電話相談」，「妊娠 SOS 電話相談」「子ども虐待予防のための家庭訪問員の養成講座の開催，妊娠期からの家庭訪問の実施」などを実施した。

（久保田君枝）